

**主催：**

**お問い合わせ：大阪自治体問題研究所　０６－６３５４－７２２０　または　大阪自治労連０６－６３５４－７２０１**

**ところ：大阪グリーン会館２階大ホール**

2014年8月20日の豪雨による広島市の土砂災害、2015年9月9日～11日の台風第18号による鬼怒川の堤防決壊など、近年、豪雨による水害が大きな脅威となっています。今回は「鬼怒川決壊現地調査」を国土研事務局長が報告。また稲垣泰平さんが、大阪平野がつくられてきた歴史を古代から解説や震災の歴史的から学ぶべき教訓、淀川や大和川についても報告します。防災まちづくり（ＰａｒｔⅢ）研究会からは、東日本大震災後の201１年１２月に大阪府内の各自治体の防災担当者を対象に、各自治体の防災対策の現状や計画についてアンケートを行いましたが、２０１６年１月に実施した３回目のアンケートの結果をもとに、自治体の防災計画はどこまで進んだかを検証します。フロア発言も大歓迎です。

住民のいのちを守る自治体の防災対策はどこまで進んだのか？

問題提起：　中山　徹（奈良女子大学教授・都市計画）研究会代表

報　　告：　①特別報告「鬼怒川決壊現地調査報告」国土問題研究会

②「水害と防災」を考える　水害に強いまちづくりを考える会　稲垣泰平

③大阪の防災はどこまで進んだか？「大阪府下自治体アンケート第3弾」

討　　論：　参加者からのフロア発言

**と　き：３月２１日(祝・月)午後１時30分～４時30分**